

- 巻頭言 -

地域に根ざした学会活動の大切さ ～学ぶ・育てる・発信する地域ブロック活動の可能性～

一般社団法人日本社会福祉学会 副会長 保正 友子(日本福祉大学)

この1年間、日本社会福祉学会副会長として地域ブロック担当者委員会の活動をしてきました。その経験を踏まえて、地域ブロック活動について考えたことを書きたいと思います。

日本社会福祉学会は、社会福祉系学協会のなかでも活発に地域ブロック活動が行われている数少ない学会だと思います。7つの地域ブロック(北海道、東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州)で独自の活動を行っており、ブロック担当理事も選出しています(<https://www.jssw.jp/district/>)。地域ブロック活動は、単に大規模な全国学会活動を地域ごとに分割して実施するだけでなく、独自の意義があると考えます。ソーシャルワーク専門職のグローバル定義が各国および世界の各地域で展開してもよいと打ち出していることを考えると、各地域ブロックでの活動はグローバル定義を具現化するものといえるでしょう。地方創生の取り組みを進めるためには、地域に根ざした活動が不可欠です。そこで、地域ブロック活動の可能性について、学ぶ・育てる・発信する側面から概観します。

まず、学ぶことについてです。言うまでもなく学会とは「知の共同体」であり、学ぶことを中軸にした活動を展開します。それぞれのブロックにおいても、研究会や大会が活発に行われています。地域ブロック持ち回り、日本社会福祉学会フォーラムも開催してきました。2023年5月28日の総会においては、2026年度以降は地域ブロック持ち回りでの秋季大会の開催方式を決定しました。このように、学会員の身近に学ぶ場があることにより、最新の知見を得られやすくなり、研究発表の機会も増えるでしょう。特に、全国大会での研究発表は少し敷居が高いと感じている方にとって、地域ブロックでなら幾分か楽な気持ちでチャレンジできるのではないのでしょうか。その地域独自の課題について学び研究する機会も得られます。まさにソーシャルワークの基盤となる「地域・民族固有の知」を生み出し、発信する機会といえると考えます。

次に、育てることについてです。地域ブロック独自で若手研究者を育てる活動が展開されています。研究大会で萌芽的研究部門を設けたり、若手研究者への奨励賞制度を設けたり、研究発表後の討論を長めにとったり、大学院生・若手研究者のための勉強会や情報交換会を設けたりと、それぞれに創意工夫されています。研究者養成には、「徒弟制度」のような一子相伝の要素と、「学校制度」にみられるシステムの一定の基盤を形成する要素の両方が大切だと考えます。それらの要素は多様な関係性のなかに含まれています。例えば、大学院の指導教員と指導をうける側のつながりが「タテの関係」だとすると、院生同士や若手研究者同士のつながりが「ヨコの関係」にあたります。そして、地域ブロックでキャリアの異なる他大学の研究者達とのつながりは「ナナメの関係」といえるでしょう。研究者として豊かに育つうえで、この「タテ・ヨコ・ナナメ」の関係はどれも大切です。特に、自らの研究分野に留まらない広い視野を養い、多様な年代や領域の人との幅広いネットワークをつくり、時には自組織のなかでは解決できない課題に対する緩衝材の役割も果たす「ナナメの関係」は大切です。その意味からも、地域ブロック活動は重要な役割を果たすと思います。

そして、発信する側面についてです。どの地域ブロックも、ニュースや機関誌の発行を行い、ホームページで日々の情報発信を行っています。今日では論文がリポジトリ化されており、一般市民の方々

もブロック発行の学会誌の内容を読むことができるため、学会の存在や研究知見を知ってもらうことに役立っています。また、その時々为社会福祉をめぐる動きや地域課題に対して、学会としての意見表明や提言を行う場にもなり得ます。まさに、地域を基盤とするソーシャルアクションの場ともいえるでしょう。そのため、学会が旺盛に発信すればするほど、一般市民にとっては社会福祉を学び研究する機会が身近になるだけでなく、その地域や日本においてアカデミックな風土を醸成することに結びついていくのではないのでしょうか。

以上のように、本学会における地域ブロック活動には、学ぶ・育てる・発信するの三つの面で独自の存在意義があります。今後は、日本社会福祉学会の他の委員会(研究支援委員会、研究委員会、広報委員会等)と連携しながら、より充実した地域ブロック活動が展開できるよう努めて参ります。そして、全国学会の活性化が地域ブロックの活性化につながり、地域ブロックの活性化が全国学会の牽引力となるよう、互いに連携しながら進んでいくことを目指しますので、会員の皆様からもご意見をお寄せいただけますと幸いです。